

令和5年度

第2回施設長・管理者等連絡協議会

福島県知的障害者福祉協会

福島県知的障害者福祉協会
令和5年度第2回施設長・管理者等連絡協議会 次第

令和5年12月13日(水) 10:00～
郡山市総合福祉センター5階集会室

- 1 開会のことば
- 2 会長あいさつ
- 3 議案

【報告事項】

- (1) 日本・東北地区・福島県知的障害者福祉協会活動報告(中間) . . . P 3
- (2) 令和6年度県への要望事項の報告 . . . P 9
- (3) 令和5年度各部会・委員会活動中間報告
 - ・ 児童発達支援部会 . . . P 10
 - ・ 障害者支援施設部会 . . . P 11
 - ・ 日中活動支援部会 . . . P 12
 - ・ 生産活動・就労支援部 . . . P 13
 - ・ 地域支援部会 . . . P 14
 - ・ 支援スタッフ部会 . . . P 15
 - ・ 人権・倫理委員会 . . . P 17
 - ・ 政策委員会 . . . P 18
 - ・ 研修委員会 . . . P 21

【協議事項】

- (1) 令和7年度全国知的障害福祉関係研究大会(福島)について . . . P 25
 - (2) 令和5年9月に発生した台風13号により被害に見舞われた
会員施設並びに事業見舞金について . . . P 31
- 4 その他
 - 5 閉会のことば

【 報 告 事 項 】

令和5年度 日本・東北地区・福島県知的障害者福祉協会 活動報告（中間）

(1) 日本知的障害者福祉協会

事業名	開催日時	開催場所	備考
全国知的障害関係施設長等会議	令和5年7月13日（木）～14日（金）	東京都	集合開催
日中活動支援部会全国大会	令和5年12月7日（木）～8日（金）	大阪府	集合開催
障害者支援施設部会全国大会	令和6年1月18日（木）～19日（金）	沖縄県	集合開催
全国知的障害福祉関係職員研究大会	令和5年11月16日（木）～17日（金）	山梨県	集合開催
全国グループホーム等研修会	令和5年10月3日（火）～4日（水）	広島県	集合開催
相談支援・就業支援セミナー	視聴期間 令和5年12月5日（火）～18日（月）		オンデマンド 配信
全国障害者・文化祭	令和5年10月14日（土）～11月26日（日）	石川県	集合開催
全国障害者スポーツ大会	令和5年10月28日（土）～30日（月）	鹿児島県	集合開催
全国会長・事務局長会議	令和5年10月25日（水）～26日（木）	東京都	集合開催
全国児童発達支援施設運営協議会	令和5年11月28日（火）～29日（水）	愛知県	集合開催
リスクマネジャー養成研修会（上級）	令和5年6月29日（木）～30日（金）	東京都	集合開催
リスクマネジャー養成研修会	令和5年11月7日（火）～9日（木）	東京都	集合開催
全国支援スタッフ委員会代表者会議	令和6年3月7日（木）～8日（金）	東京都	集合開催

(2) 東北地区知的障害者福祉協会

事業名	開催日時	開催場所	備考
令和5年度第1回合同委員会及び理事会・監事会	令和5年5月24日（水）	宮城県	集合開催
令和5年度施設長・管理者等連絡協議会及び定期総会	令和5年6月19日（月）～20日（火）	青森県	集合開催
東北フォーラム第1回実行委員会・第2回研修委員会	令和5年7月4日（火）	宮城県	集合開催
専門研修会講師打ち合わせ会	令和5年7月25日（火）		オンライン 開催
東北フォーラム第2回実行委員会	令和5年8月2日（水）	宮城県	集合開催
第3回研修委員会	令和5年8月4日（金）		オンライン 開催
東北フォーラム第3回実行委員会	令和5年9月6日（水）	宮城県	集合開催
専門研修会ファシリテーター事前研修	令和5年9月7日（木）～8日（金）		オンライン 開催

令和5年度専門研修会	令和5年9月14日(木)～15日(金)	山形県	集合開催
第4回研修委員会	令和5年9月19日(火)	宮城県	集合開催
第1回常任理事会	令和5年10月12日(木)		オンライン開催
東北フォーラム第4回実行委員会	令和5年10月18日(水)		オンライン開催
東北フォーラム第5回実行委員会	令和5年11月13日(月)		オンライン開催
東北フォーラム2023inみやぎ	令和5年11月30日(木)～12月1日(金)	宮城県	集合開催

(3) 福島県知的障害者福祉協会

事業名	開催日時	開催場所	備考
第1回理事会	令和5年4月19日(水)	西郷村	集合開催
令和5年度福島県知的障害者福祉協会定期総会	令和5年4月26日(水)	書面開催	オンライン開催(会長及び議長集合、他委任状等)
令和7年度全国知的障害福祉関係職員研究大会に関する打ち合わせ	令和5年5月17日(水)	西郷村	集合開催(三役及び事務局)
第1回正副会長会議	令和5年7月14日(金)	西郷村	集合開催
令和5年度1回全国知的障害福祉関係職員研究大会(福島大会)実行委員会	令和5年9月12日(火)		オンライン開催(研修委員長集合)
第2回正副会長会議	令和5年9月22日(金)	西郷村	集合開催
第10回作文コンクール福島県入賞作品選定	同上	同上	同上
第3回正副会長会議	令和5年11月8日(水)	西郷村	集合開催
第2回理事会	令和5年12月6日(水)	西郷村	集合開催
第2回施設長・管理者等連絡協議会	令和5年12月13日(水)	郡山市	集合開催
令和5年度合同研修会実行委員会	令和6年2月【中止】		
令和5年度福島県知的障害者福祉協会合同研修会	令和6年2月【中止】		

令和5年度 福島県知的障害者福祉協会事業活動（中間）報告

令和5年12月1日現在

- 1 日本知的障害者福祉協会及び東北地区知的障害者福祉協会等との連携を密にし、県内施設間での情報交換や組織的活動を活発化する。

・協会組織と外部団体

令和5年度においては新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したこともあり、第1回理事会においては集合型、総会においては zoom による web 会議での開催となった。また、福島県知的障害児者生活サポート協会についても同様に理事会及び代議員総会を集合で開催となった。

東北地区知的障害者福祉協会の理事会及び合同委員会でも集合と web による会議が実施され、関係者の皆様がそれぞれに参加することが出来ていた。

その他、外部団体との連携として、「公益財団法人 福島県障がい者スポーツ協会」、「福島県障がい者社会参加推進協議会」の役員も福島県知的障害者福祉協会として会長が受けている。

1. 福島県知的障害者福祉協会	会長	江尻勝巳
同	副会長	岡崎立郎
同	同	鈴木繁生
同	事務局長	大河原光子
同	事務局員	田中春光
同	同	増井義仁
同	同	矢部美咲
2. 福島県知的障害児者生活サポート協会	理事長	岡崎立郎
同	副理事長	鈴木繁生
同	同	江尻勝巳
3. 東北地区知的障害者福祉協会	常任理事	江尻勝巳
同	理事（児童発達支援部会）	佐藤元彦
同	人権倫理委員会委員	小林優子
同	政策委員会委員長	古川彰彦
同	政策委員会委員	金野小百合
同	研修委員会委員	品川寿仁
4. (公財) 日本知的障害者福祉協会	政策委員会委員	古川彰彦

- 2 障害者権利条約の理念の基で障害者総合支援法が円滑に施行されるよう県内の意見集

約に努め、日本知的障害者福祉協会への提言を行う。

・政策提言等への取り組み

「令和6年度福島県予算編成に対する各団体の要望事項等」に対し会員パブリックコメントを実施し、新規要望事項2件を福島県社会福祉協議会を通して福島県保健福祉部へ提出した。(要望事項及び県回答は別紙参照)

東北地区知的障害者福祉協会理事会において、報酬改定について協議し意見集約をし、日本知的障害者福祉協会へ提言を行った。

- 3 全国の都道府県協会の先駆的な取り組みとして、加盟全事業所に「人権擁護委員会」が設置され、人権擁護と意思決定支援に基づく利用者支援の展開が図れるよう協力する。

・人権擁護と意思決定支援の取り組み

令和4年度から、全サービス対象に「虐待防止委員会の設置等」「従業員への研修の実施」「虐待防止等の為の責任者の設置」が義務化された。

福島県では人権倫理委員会で作成している「虐待防止自己チェック表」「意思決定支援実例集 Ver.8」「人権擁護委員会設置に関するアンケート」などによりいち早い取り組みがされている。

- 4 部会毎の研修を充実させることにより、加盟施設・事業所の人材育成に寄与できるよう、部会・委員会活動を支援する。

・研修の取り組み

各部会及び委員会においては、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し、集合型の研修を行っている部会もあり、また、zoomなどを利用したweb会議や研修など、各部会・委員会で工夫して活動していただいた。

合同研修会については早くにお伝えした通り、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したものの対象者が高齢者および本人参加型であるため、感染リスクは拭えないとし、中止とさせていただいた。

- 5 福島県社会福祉協議会、障がい児者福祉施設協議会との協力を密にする。

・福島県が実施する「障がい児者福祉施設等への応援職員派遣支援事業」への連携協力

福島県社会福祉協議会 障がい児者福祉施設協議会が主となる体制で、障がい児者施設等でクラスターが発生した場合の応援職員派遣事業へ県協会として連携協力体制を整えた。

- 6 福島県との情報交換を密にし、県が主催する各行事に協力する。

福島県障がい者施策推進協議会条例に基づき、福島県障がい者施策推進協議会の委員として岡崎立郎副会長が参画して、「障がいのある人もない人も共に暮らしやすい福島県づくり条例」及び「福島県手話言語条例」に基づく取り組み状況、「第5次福島県障がい者計画」の実施状況について精査検討した。

- 7 日本知的障害者福祉協会や東北地区知的障害者福祉協会が主催する各種会議や研修会等への協力を行う。
 - ・第10回全国障がい福祉ふれあい作文コンクールの取り組み
従来の福島県教育庁からの周知協力に加えて、会員施設・事業所へも近隣の小・中学校への案内周知を依頼した、今回は26作品の応募と少なかったが、9月22日に正副会長と事務局にて選定会議を開催し日本知的障害者福祉協会へ提出する作品の選定作業を実施した。
- 8 組織強化と加盟促進並びに人材確保を図るために、県協会ホームページを活用する。
 - ・広報の取り組み
協会ホームページにより、会員施設及び協会の広報活動を実施。
今年度は年度当初より会員数が2減り112施設・事業所として活動している。
- 9 相談支援部会の発足を円滑に進める。
会員事業所に対し併設等の相談支援事業所の加入促進の取り組みを行った。相談支援事業所加盟は福島県協会の会費徴収なしで組織化する計画であるが、2事業所のみ
の加盟状況に変わりなく、会員に対して更なる加盟協力を仰ぎたい。
- 10 全国知的障害福祉関係職員研究大会（令和7年度福島大会）開催に向け、実行委員会を組織し準備を進める。
 - ・実行委員会の開催および視察研修
2年後に開催が予定されている上記大会について、開催準備に伴い第1回実行委員会を9月12日に開催した。11月15日～17日に本年度開催県の山梨県へ視察研修を行い、開催に係る方法や資料などの共有をした。現在、各部会・委員会において分科会の内容検討を行っている。
- 11 新型コロナウイルスが第5類に分類された後も、感染症の予防対策・感染防止の徹底を図るように促すと共に、感染状況によっては事業所間の連携を図り、出来る範囲で協力と応援体制が組めるように努める。
令和2年5月1日付けで、「福島県知的障害者福祉協会会員施設等における新型コロナウイルス集団感染発生時の対応について」として、当協会会員の施設等でクラスターが発生した場合の後方支援協力体制を構築した。現時点で会員施設内での感染及びクラスターが発生したという事例はあるものの、支援の要請は無く、会員施設事業所所属の法人内で協力体制を作って解決していると報告を受けている。
- 12 その他
 - ・国、地方自治体等が提唱する「新しい生活様式」の取り組みについて
新型コロナウイルス感染症の拡大防止の取り組みとして、県協会としてはどのように「新しい生活様式」を取り入れて行くかと検討した結果、総会等の会議や研修の新たな

開催方法として、zoomによるweb開催も可とし、会議や研修を開催した。現在は第5類に移行したことにより、感染が表面上分りにくくなっているものの、周囲の感染状況を確認しながら、集合型での会議開催などを行っていく。

・事務局体制に伴う会長決裁と打合せ

今年度においても会長決裁及び打ち合わせについては、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したが、会計処理、収受・発遣文書の会長決裁と協会運営のための事務局打合せを2～3ヶ月に1度とし、緊急性がある場合にはその都度の電話や電子メールにて対応した。

令和6年度予算編成等に対する要望事項(令和5年9月1日 関係福祉団体)
 福島県知的障害者福祉協会

番号	新規・継続	要望項目	要望要旨	所要経費	県回答	担当課
1	新規	新型コロナウイルス感染症による収入減に対する補助	令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症が5類に位置付けられたことで、それまで施設を休んだ方に対して行っていた電話相談支援が給付の対象外になり請求できなくなったため、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を継続していただきますようお願いいたします。	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 必要経費	障がい福祉事業所等に対し、引き続き必要な感染対策の情報提供に努めるとともに、感染対策経費に係る補助金等の継続について、今後も国へ要望してまいります。	保健福祉部 障がい福祉課 (在宅)
2	新規	物価・高騰対策	近年、エネルギー関連、食材費等の物価高騰の影響を受け、事業所の経費が大幅に増加しているため、電気・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金を継続していただきますようお願いいたします。	電気・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金 必要経費	原油価格が高止まりの状態であり、物価高騰の影響が依然として大きいことから、障がい福祉事業所等への切れ目のない支援ができるよう、今後も国へ要望してまいります。	保健福祉部 障がい福祉課 (在宅)

令和5年度児童発達支援部会中間報告

部会長 桑澤恵美子

活動計画について

【入所系】

1) 障害児入所施設における加齢児の地域移行についての取り組みについて。

- ・障がい児入所施設における加齢児の地域移行への取り組みについては部会としての活動には至りませんでした。

現状としては8月3日に県の移行調整会議が開催され、いろいろと意見は出されましたが具体案はなく、児童家庭課が成人の入所施設を訪問してお願いをするという話もありましたが実際はメールでのお願いに留まっている状況です。

各圏域の連絡会等でも話題に上がっており、独自のフローチャートの作成がされたりしているところもあり、個別の検討会も開催されてはいますが、見通しの持てる具体案にはなっていないのが現状と思います。

【通所系】

1) 放課後等デイサービスガイドライン、児童発達支援ガイドラインに沿った運営、支援の質の向上、自己評価から見えた課題や改善策など、障害児支援の在り方について考える。

- ・各事業所での人員不足や職員のスキルアップ等課題はありますが、今年度は職員配置基準について、報酬単価にも関わる事なので大きな話題であったかと感じております。特に放課後等デイサービスの事業所が増えている事もあり、年々厳しくなっている状況にあります。今後、そういった制度の理解について分かり易く解説して頂けるような機会も設けられたらと思います。

【共通】

1) 研修会の開催について

- ・昨年までコロナ過の為、開催が難しかった状況で4年ぶりに研修会を開催しました。当事者のピアノ演奏（癒しの瞬間）・メッセージ（コロナ過の中亡くなってしまったM君からのメッセージ）・パワーチャージ（近藤美智子先生から）…

40名の方にご参加頂きました。講師の近藤先生にも癒されましたと言うお言葉を頂き研修会を終える事が出来ました。

令和5年度 障害者支援施設部会中間報告

部会長 佐川 滋

1. 各部会活動

(1) 福島県の部会活動

- ① 9月12日(火)、「令和5年度第1回全国知的障害福祉関係職員研究大会(福島大会)実行委員会(Zoom)開催。
- ② 9月29日(金)、令和7年度開催「全国知的障害福祉関係職員研究大会(福島大会)」に係る分科会テーマ及び講師の選定に関する依頼文書を部会加盟施設へメール送信。
- ③ 10月20(金)に「施設見学及び情報交換会」を開催。
 - 施設見学：社会福祉法人 友愛会 光洋愛成園
 - 施設概要説明・情報交換会：広野町公民館
 - 参加者：8施設13名
- ④ 児童発達支援部会 桑澤部会長より電話あり、11月22日(水)に研修をするにあたって、共催の依頼あり。
 - 4年ぶりに対面での研修会を開催した。施設見学終了後、場所を移して事業所で現在抱えている「問題点」「情報提供」等について話し合った。有意義な時間を持てた。

(2) 東北地区部会活動

- ① 6月19日(月)、20日(火)、青森県において「東北地区知的障害者福祉協会 定期総会・施設長等連絡会」が対面形式で開催されました。

(3) 全国部会活動

- ① 7月13日(木)、14日(金)、東京都において「全国知的障害関係施設長等会議」が対面、オンデマンド配信形式で開催されました。
- ② 令和6年1月18日(木)、19日(金)、沖縄県 パシフィックホテル沖縄にて「障害者支援施設部会全国大会」が対面形式で開催予定。
テーマ：「語やびら」～“どうするか”を語ると、“どうなるか”が見えてくる～

令和5年度日中活動支援部会中間報告

部会長 小沼貴久

1. 事業計画に伴う中間報告

① 職員研修

令和5年8月4日(金) 13:00～16:00

オンラインセミナー

テーマ：障がい者の日中活動サービスの支援の在り方について

～生活介護の多様な障害や高齢・重度化への対応等についての実践～

講師：独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

総務企画局企画部事業企画課長 清水清康 氏

生活支援部生活支援課ひなげし寮 伊豆山暢子 氏

地域生活部地域支援課地域生活支援係 伊藤省吾 氏

参加事業所：22事業所(28事業所中)

参加人数：33名

※受講アンケートを実施し、参加者より国立のぞみの園での支援の実態やより実践的な支援方法の例などを知ることができ、現場で実践したい等の意見も多く聞かれ、より有意義な研修となりましたとの声を多く寄せられた。

② 視察研修会

企画検討中

2. 日中活動支援部会各地区(全国・東北等)活動

①令和5年7月13・14日 全国知的障害関係施設長等会議が対面及びオンデマンド配信で開催。

②令和5年9月12日 令和5年度第1回全国障害者福祉関係職員研究大会(福島大会)実行委員会(zoom)開催

③令和5年11月16・17日 全国知的障害福祉関係研究大会(山梨大会)が対面及びzoomにて開催。

④令和5年12月7・8日 日中活動支援部会全国大会が対面集合型にて開催。
テーマ「その人らしい暮らしの実現に向けた社会参加」
～日中活動支援と居住支援の実際的連携～

令和5年度 生産活動・就労支援部会中間報告

生産活動・就労支援部会
部会長 滝田 昌宏

1. 全国知的障害福祉関係職員研究大会
期日 : 令和5年11月16日(木)・17日(金)
開催地 : 山梨県
2. 全国生産活動・就労支援部会職員研修会
期日 : 令和6年1月中旬
開催地 : 今回は協会本部が担当し、オンデマンド配信予定
配信期間は2週間程度
内容 : まだ決定していないが、厚生労働省職員からの行政説明の後、講演及びシンポジウムを予定。
3. 東北地区知的障害者福祉協会職員研修大会 東北フォーラムinみやぎ
※福島県の物産店出展参加事業所 1件

【活動近況】

生産活動・就労支援部会では、コロナ前においては「対面」で物産展や販売会等の活動を行っていたが、ここ数年新型コロナ感染対策の観点から中止が多かった。しかし、漸くぶりに今年から対面での活動が復活し、11/30及び12/1の東北フォーラムには、「大信やまゆり」さんに販売出展していただいた。

また、令和7年度福島県で開催される「全国知的障害福祉関係職員研究大会」に係る「部会打ち合わせ会」を2回開催し、分科会のテーマや講師等候補者の選考等を行った。

令和5年度 地域支援部会中間報告

地域支援部会

部会長 小川 弘一

1、地域支援部会研修会

令和5年5月8日より新型コロナウイルス感染症の位置付けが2類から5類感染症に変わり、研修会を9月、10月の間で開催する計画を立て、各事業所において調整していたが集まるのが難しい状況だったため、やむを得ず中止としている。

今後、障害者総合支援法の改正（2024年4月1日施行）等の新たな情報が入った場合は地域支援部会員で共有し、進めていきたい。

令和5年度 支援スタッフ部会 中間活動報告 (11月14日現在)

【会議内容】

事業名	開催年月	内容	開催場所
第1回 支援スタッフ部会 役員会	令和5年4月	・前年度役員から新役員への引継ぎ ・令和4年度 事業報告及び収支決算報告 ・令和5年度 事業計画・予算確認 ・新年度役員顔合わせ	福島県矢吹しらうめ荘
令和5年度 支援スタッフ部会 総会	コロナの影響にて 未開催	・令和4年度活動報告及び収支決算 ・令和5年度活動計画・予算 ・スタッフ部会の名簿作成 ・東北フォーラムについて	書面にて報告
第2回 支援スタッフ部会 役員会	令和5年7月	・東北フォーラムについて(進捗確認) ・役員の集会等に係わる予算算出について	web 開催
第3回 支援スタッフ部会 役員会	令和5年10月	・東北フォーラムについて(進捗確認) ・令和7年度「全国知的障害福祉関係職員研究大会」について(情報共有)	web 開催
第4回 支援スタッフ部会 役員会	令和5年11月	・東北フォーラムについて(最終確認) ・行動支援計画スキル学習会について ・各地区の活動状況について	web 開催

【各地区の事業計画】

○県北地区／施設・事業所数:11箇所、委員数:11名

日程	活 動 内 容	参加委員数
5月	・役員引継ぎ。 ・スタッフ部会の名簿作成を行いました。	2事業所2名
7月	・東北フォーラム開催に向け、動画作成(写真収集)をメールで行った。	

○郡山地区／施設・事業所数:6箇所、委員数:6名

日程	活 動 内 容	参加委員数
5月	・役員引継ぎ。 ・スタッフ部会の名簿作成。	1事業所1名
7月	・東北フォーラム開催に向け、動画作成(写真収集)をメールで行った。	

○県中地区／施設・事業所数 6箇所、委員数:6名

日程	活 動 内 容	参加委員数
5月	・役員引継ぎ。 ・スタッフ部会の名簿作成。	2事業所2名
7月	・東北フォーラム開催に向け、動画作成(写真収集)をメールで行った。	
11月	・部員顔合わせ。 ・東北フォーラムについて情報共有。	

○県南地区／施設・事業所数：11箇所、委員数：11名

日程	活 動 内 容	参加委員数
5月	・役員引継ぎ。 ・スタッフ部会の名簿作成。	2事業所2名
7月	・東北フォーラム開催に向け、動画作成(写真収集)をメールで行った。	

○会津地区／施設・事業所数：5箇所、委員数：6名

日程	活 動 内 容	参加委員数
5月	・役員引継ぎ。 ・スタッフ部会の名簿作成。	5事業所7名
6月	・部員顔合わせ ・施設見学(ふくしの家) ・東北フォーラム開催について情報共有。	
7月	・東北フォーラム開催に向け、動画作成(写真収集)をメールで行った。	
8月	・施設見学(りんどうの家) ・東北フォーラム開催について情報共有。	

○いわき・相馬双地区／施設・事業所数：14箇所、委員数：15名

日程	活 動 内 容	参加委員数
5月	・役員引継ぎ。 ・スタッフ部会の名簿作成。	2事業所2名
7月	・東北フォーラム開催に向け、動画作成(写真収集)をメールで行った。	

【総括】

○東北フォーラムについて

東北フォーラム2023in宮城について、例年同様に各事業所にテーマに沿った写真を依頼し、集まった写真をつなぎ合わせ動画を作成した。

○各地区の活動について

- ・各圏域、新型コロナウイルス感染予防対策のため、各地区役員の判断で活動を実施した。
- ・感染予防の観点から、主に電話や書面で引継ぎを行った。
- ・人権・倫理委員会と合同で開催予定の行動支援計画作成スキル学習会について、現在計画を立て準備を進めている。
- ・令和5年度支援スタッフ部会総会開催にあたり、総会の出欠確認を持って本年度の部員確認を行った。未返信の事業所に関しては数に含んでいない。

○「行動支援計画スキル学習会」「虐待防止責任者・管理者等研修会」について

- ・人権倫理委員会と連絡を取りながら開催に向け準備を進めている。
- ・行動支援計画スキル学習会に関してはスタッフ部会を主体に準備を進めている。
- ・虐待防止に関しては人権倫理委員会が主体となり、情報共有をしながら準備を進めていく。

以上、報告致します。

支援スタッフ部会
部会長 鈴木 勝治

令和5年度人権・倫理委員会活動報告書(中間報告)

人権・倫理委員会 委員長小林優子

1. 【委員会名】福島県知的障害者福祉協会人権・倫理委員会
2. 【実施日・参加者人数】人権倫理委員会の事業実施内容

①令和5年度第1回人権・倫理委員会(書面開催)

実施日令和5年11月14日(火) 参加者役員全員

虐待防止チェック表の実施について

意思決定支援事例集 ver. 9の作成について

虐待防止責任者・管理者研修会について

行動支援作成スキル学習会について

3. 【実施事業】

①虐待防止自己チェック表 ver. 7の実施

各事業所での実施期間 令和5年11月20日～12月18日まで

提出期限 令和6年11月10日(月)

②意思決定支援事例集作成 ver. 9の作成

・令和4年度作成分にて 終了

平成26年度より、調査を開始。今年度まで計8回の実例集を作成いたしました。数多くの事例が集まり、今後の支援の指針となる実例集となっているとともに、職員の皆様が意思決定支援に尽力されていることの証明ともなりました。

今後は、計8冊に及ぶ実例集を各施設での話し合いの際に有効活用していただき、よりよい支援のために役立てていただきたいと思いますと考えております。この意思決定支援事例集が、各施設におきまして継続して実例集を作成されるための一助となれば幸いです。

なお、福島県知的障害者福祉協会のホームページ内に意思決定支援事例集の特設コーナーを作成いたします。こちらもお役立てください。

実例集の編集に係った委員と、お忙しい中、事例の作成・提出にご協力いただいたすべての施設職員様に感謝申し上げます。

③虐待防止責任者・管理者研修会について

講 義 「意思決定支援の取り組み・合理的配慮」

～虐待防止に依らない人権擁護～

テキスト 同名の講義資料

意思決定支援GSB(グループスーパービジョン)

講 師 社会福祉法人育成会 常務理事 古川 敬 氏

実 施 日 令和6年2月20日(火) 13:00～17:00

場 所 ビッグパレット 中会議室

④行動支援計画作成スキル学習会について

開催について、支援スタッフ部会と協議中。

令和5年度 政策委員会 中間報告

委員長 金野小百合

1 政策に関する中間報告

- (1) 父の夢古川施設長が日本知的障害者福祉協会政策委員、及び東北地区知的障害者福祉協会政策委員長として参画。
- (2) 令和5年度東北地区知的障害者福祉協会第1回合同委員会に出席
「障害者総合支援法改正法施行後3年の見直し」に対して、また、「令和6年度障害福祉サービス等報酬改定について」に向けた課題や要望などの意見を集約し、東北地区事務局にて、東北6県の意見書として協会本部への提言を行う。
- (3) 「2024年度福島県予算編成に対する各団体の要望事項等」に対し会員パブリックコメントをもとに要望書を提出する。
- (4) 「福島県障がい者施策推進協議会」へ岡崎副会長が参画する。

(資料)

令和5年度東北地区知的障害者福祉協会定例総会第1回合同委員会(政策委員会)の報告

(1)「障害者総合支援法改正法施行後3年の見直しについて」

日本知的障害者福祉協会政策委員会で協議された内容について古川委員長より以下の報告があった。

- ①障害者の居住支援について
- ②障害者の相談支援等について
- ③障害者の就労支援について
- ④障害福祉サービス等の質の確保・向上について
- ⑤高齢の障害に対する支援について

(2) 令和6年度障害福祉サービス等報酬改定への対応等について

東北6県に次期報酬改定について各県で要望書を取りまとめ、古川委員長が意見集約し、協会本部へ提言する。

①報酬改定に向けた要望書

優先順位

- ①除雪費、暖房費加算の新設…以前に加算されていた「寒冷地加算」同様の、除雪費加算及び暖房費加算の新設
- ②食事提供体制加算の経過措置の恒久化について【横断的】…障害特性や症状に合わせた健康維持や社会参加・集団活動参加への意欲を低下する事としないために、加算の廃止はせず、恒久的な加算とする。
- ③送迎加算の経過措置の恒久化及び増額、送迎必要地域における体系の見直しについて【横断的】…国のガソリン購入の支援も減少していく可能性も高く、送迎加算の増額は必要。送迎時間中も支援が必要で、運転手及び添乗員の同行が必要なため、送迎時間もサービス提供時間に含める対応。
- ④グループホームの報酬単価の増額及びグループホーム利用者への金銭的な助成(特に年金2級受給者)…GHの報酬単価の増額 利用者生活費支出に係る早急な金銭的助成。
- ⑤高齢化対策のための加算(通院支援加算)及び重度障害者受け入れ事業所への夜勤加算の拡充…(1)通院等の人員体制をとるための加算の新設。(2)重度障害者を受け入れるための、夜勤帯に職員を今まで以上に配置できる報酬の引き上げ。
- ⑥強度行動障害に対する支援の更なる充実に向けて…より専門的な支援のための支援者教育、家族・医療・行政・教育機関と連携によるチーム支援の強化、継続した人材各帆が出来る体制作りのため、更なる報酬単価の改定。強度行動障害の利用者が多く、手厚い支援が必要な人員配置として、1.5:1等の体制加算。
- ⑦介護・福祉職員処遇改善加算について【横断的】…全職種の職員を対象。他の産業分

野における労働者の賃金水準等を踏まえた適切な給与額の担保と、更なる処遇改善。

③物価・光熱水費等の上昇分を報酬単価に反映…今後は物価高騰を反映・連動出来る基本報酬設定への見直し。

④福祉型児童入所施設における新たな加算創設について…15歳ごろからの地域移行に向けた取組について「地域移行支援連携加算」といった新たな加算の創設。

②報酬改定に向けた要望以外の要望

優先順位

①人材確保への国としての取り組み【横断的】…福祉サービスは社会生活上、欠かせないものであることを理解して頂き、国レベルで人材確保対策を。

②介護保険適用除外施設における介護認定の柔軟な運用について…除外施設に入所中であっても、利用者の状況に応じて医師が要介護状態と判断した場合に介護認定を受け、適切な支援が受けられる施設への移行が出来る法整備。

③生活介護の支援体制について…虐待防止の視点からも同一場所での24時間、365日支援は考えるべき。職住分離の考え方を大切にした支援体制・環境を整えるべき。

④障害支援区分について【横断的】…支援区分の地域格差を国は把握していると推察するが、問題点を具体的に市町村自治体へ公表してほしい。

⑤居宅介護事業、移動支援行動援護について【横断的】…「地方分権」の現在、国は地域生活支援事業の実態をどう評価し、現実的に機能する制度と福祉サービスの提供が連動出来るように示してほしい。

令和5年度 研修委員会(中間報告)

福島県知的障害者福祉協会

研修委員長 品川寿仁

1. 研修に関する事業報告

(1)令和5年度福島県知手障害者福祉協会 合同研修会について

・新型コロナウイルス感染症等の状況を鑑み、開催中止（8月16日付文書にて通知）

(2)各部会・委員会ごとの研修会

・各部会、委員会の報告のとおり

2. 東北地区知的障害者福祉協会

(1)研修委員会 会議

第1回 合同研修会 5月24日（水）仙台市

第2回 研修委員会 7月4日（火）仙台市

第3回 研修委員会 8月4日（金）オンライン開催

第4回 研修委員会 9月19日（火）仙台市

(2)令和5年度東北地区知的障害者福祉協会専門研修会

令和5年9月14日(木)～15日(金) 山形県山形市 山形グランドホテル

講師：東北福祉大学社会福祉学科准教授 竹ノ内章代 氏

テーマ：「個別支援計画作成におけるアセスメントの重要性」

参加者総数 146名

「個別支援計画と意思決定支援」をテーマに、アセスメント、計画作成と支援のあり方、モニタリングと再計画について段階的に開催。対面による参加者同士のグループワークを通して参加者間の情報交換や振り返りを行って参加者の多くの気づきを深めている。

※福島県協会 会員事業所より5名のファシリテーターを派遣

日中支援部会 いわき福音協会 岡本正志氏

支援施設部会 桜が丘学園 本間裕也氏

生産・就労部会 つばさ福祉会 後藤吉英氏

支援施設部会 陽光会 永井和幸氏（支援スタッフ部会）

児童支援部会 ほっと福祉記念会 布施 諒氏

※令和6年度の専門研修会の開催県が福島のため開催時には研修運営の他、今年度参加したファシリテーター5名の継続参加と福島県協会より10名の派遣が必要。

(3)東北未来塾構想（別紙参照）

東北地区知的障害者福祉協会の取組みとして、「次世代人材の育成」を目的に、東北未来塾の開講に向けて準備室を設置。

開講のコンセプトとして

各県協会、各法人事業所の共通テーマとなる「次の世代を担う」人材の育成を主軸に、東北地区協会に限らず各所に反映できる取り組みを目指す。

先人の想いを継承ながら、今後の福祉人材の育成や牽引ができる人材育成に絞った育成プログラムとする。

名称は「仮称東北未来塾」（以下、「（仮）東北未来塾」と表記する。）とすることとし、令和5年度は（仮）東北未来塾準備室として活動し、「育成プログラム構築に向けたヒアリング調査」を実施する。ヒアリングにあたり各県より2名の推薦者を選出し、後期にヒアリング調査を実施する。

(4)令和7年度全国知的障害者福祉関係職員研究大会

福島県開催に向けて、実行委員会として準備を進めている。

(5)「福島県障がい者施策推進協議会」

岡崎副会長が参画している。

以上

(別紙)

東北未来塾の開講に向けた進め方について

令和5年度東北地区知的障害者福祉協会（以下「東北地区協会」という。）事業計画の「3. 人材の交流、研修の実施」において、東北未来塾構想に係る活動計画は以下のとおり掲げている。

「東北未来塾」については次の世代を担う人材の育成をねらいとして研修委員会で内容を検討して実施したい。

研修委員会において熟議を重ね、東北未来塾が目指すコンセプトを定めた。

- ・「次の世代を担う」というワードは、各県協会と各法人事業所にとって共通テーマであり、東北地区協会に限らず各所に反映できる取り組みになると良い。
- ・必要とする人材像の一つに「想いの橋渡し役」「調整を担う人材」の育成が必要といった印象があり、この点に絞った育成プログラムを構築できたら良い。
- ・名称は「仮称東北未来塾」（以下、「(仮)東北未来塾」と表記する。）とすることとし、令和5年度は(仮)東北未来塾準備室として活動していく。

1. (仮)東北未来塾準備室の令和5年度活動計画

- ・各県よりご推薦いただいた方々からのヒアリング調査を実施する。
- ・ヒアリングは年度内に2回を予定。
 - 1 回目のヒアリングを基に好事例や課題等を把握する。
 - 2 回目のヒアリングにより好事例の整理や課題等の解決方を検討する。
- ・それらを受け、次年度実施の(仮)東北未来塾研修プログラムに反映させる。
- ・その研修プログラムに沿う塾生の募集につなげる。

2. 各県協会よりご推薦いただく対象者の基準

- ・各県協会会員事業所から2名の方
- ・サービス管理責任者、施設長・管理者のうち
 - ①お一方は30歳～40歳 ②お一方は45歳～50歳代

※今回ご推薦いただく方々が(仮)東北未来塾の塾生ということではありません。次年度あらためて塾生を募集する計画です。

3. 今後の予定

推薦者名の報告	令和5年11月13日(月)まで
ヒアリング1回目	令和5年12月上旬
ヒアリング2回目	令和6年3月

【 協 議 事 項 】

令和7年度全国知的障害福祉関係職員研究大会（福島大会）の進捗状況について

1 本県で開催するに至った経緯について

各ブロック持ち回り開催の標記研究大会については、関西（京都府）、関東甲（山梨県）、北陸（福井県）に次いで東北ブロックの番となる。令和5年度に本県で開催することとして平成31年度当時の当協会会長により受託されたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、後述の京都大会のずれ込みもあって令和7年度の開催となる。

2 本県での開催に向けた経過について

令和3年度に開催された京都大会については、新型コロナウイルスの大流行に伴い、オンライン開催となった。当協会においても当初オンライン開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられたこと、さらには令和5年度に開催された山梨大会が集合での開催となったことを踏まえ、日本知的障害者福祉協会事務局より、可能な範囲の対面形式にて行って頂きたいとの話しを受け、集合開催へ変更する判断に至った。

3 全国知的障害福祉関係職員研究大会（福島大会）実行委員会について

福島大会実行委員会を設ける運びとなり、理事が実行委員を担うこととする。なお、実行委員長については会長が兼務となる。

4 開催規模及び日時場所について

令和7年11月27日（木）、28日（金）ビッグパレットふくしまにて約600名規模での開催予定とし、名鉄観光サービス株式会社様協力の下、現時点で1階多目的展示ホールの全区画を予約済み。（大会準備を踏まえ、11月26日についても予約済み。）2階コンベンションホールや3階会議室については予約が一年前からとなっている為、分科会等の利用に合わせて随時予約を行う。なお、令和5年度に行われた全国知的障害者関係職員研究大会（山梨）においては、アクセスの不便さもあり、当初予定していた参加人数よりも少ない状態での大会開催となるが、福島大会については郡山駅から会場やホテルが近い等の利便性を考慮すると、当初想定した参加人数または人数の増加が見込まれると推測される。

5 大会テーマ及びスローガンについて

全国的に楽しめるよう福島音楽療法研究会「Largo」代表の福音楽療法士近藤美智子氏、福島県立医科大学教授大平哲也氏の二人をメイン講師として招聘する予定となっている。また、IOT・AIをコンセプトに掲げ、大会テーマを「明るい未来と未来の福祉」とする。

6 会場の使用方法について

式典に際して、多目的展示ホールにて執り行う運びとなるが、大会参加人数を現在の参加規模と仮定すると、全区画を使用する必要が無いことから分割での使用

となる。(3分割例、A：860人、B：720人、C：1150人)なお、感染症対策を考慮した上での舞台設置や大型スクリーン、1卓2名掛けでのスクール形式とするとAまたはC区画を使用予定となる。

7 分科会について

申込みの時点で第1・第2の希望制とする。大会規模を600名と仮定し、2日間を通して3テーマずつ計6回の分科会を行う上で、200名を上限としたスクール形式を予定している。なお、多目的展示ホール(式典で使用しない区画)やコンベンションホール等を会場使用とし、レイアウトについてはテーマのコンセプトでもあるIOT・AIに関連した研修テーマにて部会長及び委員長を中心とした部会ごとの企画及び構成とする。講師等の控え室についても一年前からの予約となっている為、必要に応じて予約及び利用を検討する。分科会講師の選定については、講師が被る可能性を考慮し、第2候補まで検討頂き、テーマ及び講師が決まり次第日本知的障害者福祉協会へ報告義務がある為、適宜事務局と情報を共有することとする。

8 プロモーションビデオについて

福島県らしさを盛り込んだ3～5分程度の動画とし、名鉄観光サービス株式会社様協力の下、専門業者への依頼及び編集を予定している。11月に行われる山梨大会視察後に作成する運びとする。なお、会長挨拶については次年度開催の福井大会に赴きプロモーションビデオの放映並びに挨拶を行うとする。

9 申込みについて

参加者の申込み要項及び開催要項等に関して、名鉄観光サービス株式会社様に協力依頼とする。

10 講師依頼について

メイン及び分科会等の講師依頼に際して、正式な通知文に関しては事務局より送付とし、部会ごとに講師及びテーマ等の選定次第、事務局への報告とする。

11 講師謝礼について

メイン講師及び分科会講師の謝礼及び旅費交通費に関しては別途支払いとし、謝礼は5万円とし、旅費交通費の詳細については今後の検討事項とする。

12 会場等の移動手段について

初日及び2日目、郡山駅からビッグパレットの往復2回シャトルバスの手配予(約400名乗車想定)とし、一括またはピストンでの送迎とする。なお、一括の場合にはシャトルバスを10台程要する為、大会開催時間を考慮した乗車人数及び新幹線等の公共交通機関の到着時間等の把握に努める必要がある。また、懇親会及び情報交換会を開催するとなると、シャトルバスの手配が必要となる為、今後の検討事項とする。自家用車で来られる方については、ビッグパレットふくしまの駐車場利用とする。

13 ホテルの配宿について

郡山市内のホテル（シングルルーム）を中心に26日からの前泊（連泊）を含め、約400名分の部屋を確保済み。郡山市内の全ホテルから回答が来ておらず、一年前からでないと予約が出来ないことを踏まえると市内のホテル（シングルルーム）のみで約600名分の配宿が可能と推測される。また、参加人数が当初の規模を超える場合のみ、磐梯熱海や須賀川市まで配宿範囲を広げることとなる。

14 懇親会及び情報交換会について

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられたものの、現時点での懇親会及び情報交換会の開催判断は難しい為、世論の動向を把握しながら精査していく。なお、懇親会及び情報交換会を開催する際には、郡山ビューホテルアネックス（400人から600人収容可）での実施予定（仮予約）とし、食事形式や食事内容、予算、催し、福島県内の特産物の準備等が検討事項となる。

15 昼食について

大会2日目の昼食時間については、お弁当の外注（希望制）が必要となり、予算、内容、個数、発注元等の検討を要する。

16 助成金について

福島県から令和6年度福島県コンベンション・エクスカージョン補助金制度及び郡山市からコンベンション開催助成金制度等の対象となる可能性がある。

17 備品借用について

郡山市より、徽章、看板、インターカム、トランシーバー等、無償での借用が可能。（備品によっては一部有料）

18 今後のスケジュールについて

令和5年度及び6年度に関しては3ヶ月に1度進捗状況を確認する為、実行委員会の開催とし、7年度に関しては1ヶ月に1度の開催とする。

第59回全国知的障害福祉関係職員研究大会（山梨大会）視察報告

1 日時

令和5年11月16日（木）12時開会式～17日（金）16時30分終了

※11月15日（水）17時30分～開催県及び次期開催県事務局との顔合わせ、事前打合せを実施した。

2 場所

ハイランドリゾート ホテル&スパ（山梨県富士吉田市新西原5-6-1）

3 参加者

江尻会長、岡崎副会長、品川研修委員長、大河原事務局長

4 内容

大会前日は開催県である山梨県知的障害者支援協会長及び副会長より別紙「スタッフ必携」に基づき説明があった。また会場についても説明を受けながら見学した。

（1）参加者等について

- ・対面参加者数614名、スタッフ数117名（ボランティア含む）
- ・動画参加予定数188名（1月10日～3月10日配信）
- ・参加要項について、以前は全加入事業所に郵送していたが、事務負担も大きいためホームページに載せただけであった。参加申込者が少ないため再周知も行った。

（2）会場について

- ・ホテル内で全プログラムを開催した。
- ・全体会はシアター形式、分科会は会場によりスクール形式もあった。地下と12階でハイブリット形式もあった。
- ・スクリーンは壇上に2枚、中間付近（後方席用）に1枚設置されていた。
- ・こども家庭庁の指示で、救護室を設け、看護師1名を配置されていた。
- ・メイン会場入口付近に業者ブースがあり書籍販売等があった。（企業出店料として30,000円徴収）
- ・就労事業所等による出店販売があった。（12施設・事業所）
- ・研修参加者には施設販売500円金券が配布された。
- ・各会場後方にウォーターサーバーが設置されていた。
- ・次期開催県（福井県）と当県の控え室が準備されていた。

（3）実行委員について

- ・実行委員は理事の20名程度。コアメンバーは10名であった。
- ・開催年度については、毎月1回実行委員会を実施した。

（4）その他

- ・講師謝礼は50,000円（源泉徴収対象外であるため）
- ・受付時は参加者名のチェックはなく、事前にメールで送付された「大会資料引換券」

を使用し、資料の引き渡しのみであった。

- ・司会はフリーアナウンサーが行った。

(5) 山梨県事務局より（11月29日確認）

- ・講師への依頼文については、日本知的障害者福祉協会長・地区会長・山梨県会長連名で作成した。ひな形については3月の配信終了後送付しますとのこと。
- ・開催要項にキャンセル料の明記がなかったため、当日キャンセル者がいたが返金しなければならなかった。明記した方が良かったと思う。
→ 決算書等も含め詳細については今後確認していくこととした。

5 次期開催の福井大会について

- ・事務局として18名がバスをチャーターして参加した。
- ・閉会式時にプロモーションビデオを放映した。
- ・開催を予定している会場は現在建設中のホテルを考えている。そのため、具体的な収容人数については未定。（2024年3月に北陸新幹線が福井まで開業）
- ・懇親会については実施したいとの意向がある。

6 参加者感想

- ・1泊2日の開催でも十分な研修であった。
- ・ホテルでの開催のため、会場設営や参加者（宿泊含む）をホテル側が担うため、事務局負担は軽減されたかもしれない。しかし、他の宿泊客への配慮や会場都合による分科会の分散開催等はやむを得ない印象がある。
- ・会場が娯楽施設のホテルであり、一般客も多く、混雑をさけるため、案内する係が多く配置されていた。自県開催時にはほかのイベントとかぶらない状況(案内係の配置に人員を増加させないため)にする必要性を感じた。
- ・開会式及び分科会において使用した会場は広かったが、後列には机が配置されてなかったため資料を広げて書き込むなど困難であり、疲れてしまう。できればスクール形式にした方が良かった。
- ・会場までの交通の便が悪いと、参加者も減るのとともに、2日目に早期離脱する参加も多くなってしまったと感じた。参加しやすい立地が理想。
- ・閉会式が開会式と同日開催、分科会の前に開催することもありだと思う。(今大会は会場の都合で同日開催とした。)
- ・全体的に基調講演、分科会共にテーマに沿った内容であったが、分科会の内容としてテーマに合っていないような講話があった。
- ・基調講演はタイムリーな話題で良かった。
- ・基調講演や分科会等、予定時間を超えているため、余裕のある時間配分が必要。
- ・映画「ひいくんのあるく町」の内容がシンプルで、地域共生社会、ノーマライゼーションそのもので一般の方にも見ていただきたいと思った。

- ・登壇者のプロフィールで、学歴や職歴等詳細情報をスクリーンに出していたが、そこまでは要らないと感じた。
- ・後方席用のスクリーンが設置されていたのはよかった。
- ・第3分科会はハイブリット形式であったが、画面の乱れや音声トラブルで講師の声が聞き取れず残念であった。
- ・参加当日、翌日はシャトルバスがあり移動しやすかった。
- ・事務局作成の「スタッフ必携」の資料が素晴らしかった。詳細まで役割分担されており、共有できたのはかなり助かる部分だった。この資料作成ができれば理想である。
- ・当日100名以上のスタッフがいたが、余剰と感じた。
- ・就労事業所等の物販会場が地下で、メイン会場からも離れており動線から外れていた。また、同じような商品が出品されていて購買意欲はあまり湧かなかった。
- ・業者ブースは狭かった。
- ・2日目昼食のお弁当が2,500円でだったが、対価には合わなかったように思える。飲み物もペットボトルではなく、水(グラス)であった。また、分科会場により飲食場所や配付方法が違っていた。地下の分科会受講者は、1階に移動しなければならなかった。
- ・プロの司会者は良かった。
- ・懇親会は中止となったが、開催しても良いと感じた。今後の方向性としては行う流れになると考えられる。
- ・女性用トイレの渋滞問題や休憩時間の確保は調整が必要である。
- ・受付は大会資料引換券での受け渡しのみであったため、混雑することなくスムーズであった。
- ・会場から富士山が見えるのに感動した。自県開催では何もないのが非常に残念。

7 当県開催に向けて

- ・山梨県では約50施設が加盟している状況の中、スタッフは参加費を払って活動してもらっているとのことであった。自県においてもその方法でスタッフを依頼し経費の削減を図るかどうか。
- ・自県開催時は11月下旬であるため、クロークを用意する必要がある。(山梨でも準備されていた。)
- ・来年は自県開催のPRも兼ねての参加となるため、出来るだけ準備を早めて進めていきたい。

福島県知的障害者福祉協会
台風13号による会員施設・事業所の被害状況について

2023/9/21現在

所在地		事業所名	建物・設備の被害状況	関係者の被害状況	他
圏域	市町村				
いわき地区	いわき市	グループホームコンパス	床下浸水	人的被害無し	
いわき地区	いわき市	いわき育成園	食堂排煙窓付近より雨漏り 浄化槽ブローワー浸水による故障	同上	
いわき地区	いわき市	東洋健生園	被害無し	同上	
いわき地区	船尾町	いわき光成園	被害無し	同上	
いわき地区	四倉町	東洋学園成人部	被害無し	同上	
相馬地区	相馬市	原町共生授産園	敷地内の崩落(幅4m×長8m程)	同上	
県中地区	田村市	東洋育成園	被害無し	同上	

○令和5年9月に発生した台風13号により被害に見舞われた会員施設並びに事業所への見舞金について

- ・被害を受けたグループホームコンパス、いわき育成園、原町共生授産園の3事業に2万円の見舞金を義援金会計から支出する。

